

協議会だより

青年技術士協議会

平成 17 年度総会・春期研修会『企業と地域貢献』

5月12日(木)に、きょうさいサロンにおいて平成17年度総会・春期研修会を開催しました。

1. 平成 17 年度総会

1) 平成 16 年度活動・決算報告が行われました

平成16年度は北海道において全国大会(おかげさまで大盛況!)があり青年技術士協議会は第5分科会を主催しました。全国大会があったため夏期研修会はありませんでしたが、冬期研修会を開催し、これからの青年技術士の役割を再確認しました。また、昨年6月16日より「危機管理研究会」を立ち上げ、計6回開催した研究会・講演会について報告しました。

2) 第9期会長・幹事等の改選

今回は、会長・幹事の2年間にわたる任期の満了(退任幹事に感謝)のため、第9期会長の選出を行い、第8期の樫谷会長の続投が満場一致で決定!し、副会長、幹事長および幹事の任命が行われました。特に、今期は昭和40年代生まれの幹事が過半数(11/18人)を占め、一段と若返りました。なお、今期からの新たな取組みとして幹事の公募も行うこととし、総会およびEPOで案内したところです。

3) 平成 17 年度事業計画(案)が決議されました

第8期のキーワード「融合と発信」に続いて、第9期のキーワードは「創造と発展」と発表!され、活動目標として『技術者達の危機管理レポート』の編纂が掲げられました。幹事若返りに伴う画期的な活動提案がなされるものと期待されます。



写真1 樫谷会長と総会風景

2. 春期講習会

春期研修会は『企業と地域貢献』をテーマに北海道日本ハムファイターズ広報のファンコミュニティサービス部の土田部長を講師による講演が行われました。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

【講演：企業と地域貢献～地域密着の球団づくり～】

〈講師〉

株式会社北海道日本ハムファイターズ

ファンコミュニティサービス部 土田光男 部長

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

みなさんは、昨年のパリーグのプレーオフを見ましたか? 日本ハムファイターズの活躍は感動的でした。講演では、当時の感動をまとめた15分ビデオの上映もあり“ウルウルッ”した参加者もたくさんいました。

土田講師からは、日本ハムファイターズが北海道に移転してからの4つのステークホルダー(ファン・地域の人々・出資者・スポンサー)に対する取組みや貢献について、親しみいっばいに語って頂きました。

1) 日本ハムファイターズはなぜ北海道に来たか

移転前は巨人と同じ東京ドームを拠点としておりました。60年近い歴史のあるファイターズですが、首都付近には6球団がひしめく状態で、また、市場が大きすぎて何をやっても反応がにぶい状態であり、少年ファイターズも4万人いましたが消滅しました。観客動員数も東京ドームが完成した頃の250万人から136万人に落ち込むなどの状況でした。

そこで、球団を再びやり直すために、2002年3月に北海道に移転することを発表し、同年8月28日に土田講師を含む3名の日本ハム社員により札幌に準備室が開設され、2004年1月1日に株式会社北海道日本ハムファイターズが正式に誕生しました。

2) 北海道に移転して大きく変わった

北海道は、日本ハムの生産基地（網走：プロイラー、旭川：ハム、八雲：工場）でして2,800 人の従業員が働いております。ファイターズが移転してきたことは、社員の生きがいになりました。

北海道におけるファイターズの支持率は1%以下→40%に、マスコミの取り上げ方も首都圏にいるときは全く異なるものとなりました。

ファンクラブ会員も14,000～15,000 人→39,000 人（H16）となり今年目標は5万人です。

土田講師から「1年でこんなにファンが増えるのは想定外でした。しかし、まだ定着しているとは考えていません。サービスの強化と継続努力を行っていきます。」との姿勢が示されました。

3) どうやって根付かせるか。地域貢献!

北海道出身の土田講師は「北海道は熱しやすく冷めやすい。ほっておくと3年ももたない。」と考えておられ、以下のことを実行したそうです。

マスコットのB・Bの背番号にもなっている“212”市町村のうち199箇所へ挨拶に回り名刺交換し、できるだけ各市町村イベントに協力する。全道42カ所にある後援会や応援団には、その活動が継続するように協力する。球団への社会見学は昨年35回実施した。赤い羽根や養護学校のティーボールなどにできるだけ協賛した。少年野球教室も80回以上（道内64～65回）実施し、網走や根室まで出張した。

そういう努力もあり、現在は道内10社から資本参加して頂いています。



写真-2 土田講師

4) ファンサービス

ヒルマン監督は、人格者でサービス精神が旺盛で、

プロ野球のストライキがあったときにはすすんでサイン会を行い、普通サイン会では80～100枚/日程度のところを1,000枚、翌日は痛み止めを飲みながらさらに350枚ものサインを書いたそうで、大変ファンサービスを重視する監督だそうです。サイン会やトークショーは、いろいろな所で、選手やB・B、ファイターズガールによって80回/年以上実施したとのこと。チケットも工夫しており、現在平日ナイターのための「730 チケット」、道民のための「なまらチケット」などのお得な限定チケットも発売しています。

参考 <http://www.fighters.co.jp/index.php>

5) マスコミとの関係

準備室を立ち上げた当時は、広報がとても大切と考えておりました。本社から「まずなにが大切か？」と問われた際には「広報の充足です」と答え、準備室においては、マスコミに常に情報を与えることを優先したそうです。

6) みなさまへのお願い

札幌ドームに直接来ていただくとありがたいとのこと。それが難しくてもテレビ中継を見てほしい！忙しいでしょうが、せめてチャンネルを合わせてくださいとのことでした。

◎株式会社北海道日本ハムファイターズ 企業理念◎

「Sports Community」
・スポーツと生活が近くにある、心と身体の健康をはぐくむコミュニティを実現するために、地域社会の一員として地域社会との共生をはかる。
・スポーツは人々の健康に貢献し、人と人が触れ合う交流の機会となり、人と人の心がつながるコミュニティを創造する力となる。
・ファイターズは「スポーツと生活が近くにある社会=Sports Community」の実現に寄与したい。

今は北海道日本ハムファイターズの足場固めの時期ですが、ゆくゆくはファイターズのネームバリューでいろいろな地域貢献を行っていきたくて考えているそうです。

4つのステークホルダーを大切に、地域貢献のためには何が大切かをよく知っている土田講師の話は、“にじみ出る温かさ”が感じられるものでした。

（文責：青年技術士協議会 米川 康）